

<別紙1>

## 第三者評価結果報告書

① 第三者評価機関名

株式会社フィールズ

② 施設・事業所情報

名称：相模原市立大沼保育園	種別：認可保育所
代表者氏名：認可保育所	定員（利用人数）：150名（142名）
所在地：〒252-0333 相模原市南区東大沼3-18-20	
TEL：042-745-2140	ホームページ： <a href="https://www.city.sagamihara.kanagawa.jp">https://www.city.sagamihara.kanagawa.jp</a>
【施設・事業所の概要】	
開設年月日：1972年3月1日	
経営法人・設置主体（法人名等）：相模原市	
職員数	常勤職員：23名 非常勤職員：27名
専門職員	（専門職の名称） 名
	園長：1名 保育補助員：2名
	副園長：1名 保育調理員：8名
	地域担当保育士：1名 事務補助員：1名
	保育士：35名 技能補助員：2名 （内1名は保育調理員と兼務）
施設・設備の概要	（居室数） （設備等）
	保育室：3室 沐浴室：1室
	トイレ：9ヶ所
	事務室（兼医務室）：1室
	調理室：1箇所
	ほふく室：1室
	調乳室：1室
	沐浴室：1室

③ 理念・基本方針

【相模原市が目指す幼児教育・保育】

自らの夢をふくらませ、夢に向かって挑戦する子ども

【相模原市の保育目標】

意欲と思いやりのある子ども

【大沼保育園保育目標】

- ・ のびのびと生活し、健康で心豊かな子
- ・ 自分で考え、自分で決めて、意欲的に行動できる子
- ・ 好奇心・探求心をもち、さまざまな経験を楽しめる子

【大沼保育園の基本方針】

- ・ 家庭的なくつろいだ雰囲気の中で子ども達一人ひとりがのびのびと楽しく過ごせるような安心・安全な環境作りをします
- ・ いろいろな遊びや友達との関わりを通して自分からやろうとする意欲を育て、ま

た、豊かな感性や人を思いやる心が育つよう一人ひとりの個性を大切にしながら、あたたかい保育をします

- ・異年齢交流のなかでいきいきと活動できる環境を作り、さまざまな経験を通して、豊かな感情、好奇心、探求心、思考力、表現力の基礎を培います。
- ・心身共にすこやかに成長できるように家庭との連携を十分に取ります

#### ④施設・事業所の特徴的な取組

・大沼保育園は住宅街の中にありますが、徒歩圏内には畑や子ども達遊ぶことのできる森等、自然に触れる環境にも恵まれています。畑での芋ほりや園外保育での森遊びを通して、子ども達が自然に親しむという経験ができたり、地域の方との交流の機会にもなっています。また、農家の方から珍しい野菜を見せてもらったり、野菜の苗を分けてもらい育てたりと、子ども達のことを大切に思ってくれる地域の方もおり、地域の中に保育園が存在していることを感じます。

・周辺には、公民館や小学校、子どもセンター、グループホームがあり、コロナ禍以前には園児との交流や地域での活動等を行い、様々な人と関わる機会がありました。現在では園内での異年齢の交流や、保育調理員との触れ合い等、身近な人との関わりから、子ども達が豊かな人間関係を育むことができるよう保育を行っています。保育士養成校と併せて近隣からの医療関係の学校からも実習生も多く受け入れており、保育という実践の場を通し様々な分野の学生が子ども達と触れ合ったり、職員にとって学びの機会にもなっています。

・保育園では「全園児を全職員で」を合言葉に、クラスの枠を超えて職員が子ども達に関わっています。園内には「遊び」「食育」「環境」の検討会があり、年齢の繋がりを踏まえた子どもの育ちを考え、実践に活かすようにしています。

#### ⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	令和4年6月3日（契約日）～ 令和5年3月29日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	2回（2013年度）

#### ⑥総評

◇特長や今後期待される点

1)子どもが基本的な生活習慣を身につけることができるよう支援しています  
園では子どもの入園前の家庭での生活状況を把握して保護者と共有しています。クラスや乳児・幼児の話し合いや職員会議を通して、子どもの発達に合わせた食事、睡眠、排泄、身支度などの援助を行っています。水道にポスターを貼り、手洗い・うがいの方法やその理由等を伝えています。手洗いチェッカーを活用した手洗い教室を通し、視覚的、実践的に楽しく手洗いの生活習慣を身に付ける工夫をしています。日常の着替え、片付けなどでは、子どもが自分でしてみようという気持ちを大切にしています。保育士は、子どもができた時には誉め言葉をかけて子どもが興味、関心を持てるように工夫しています。

2)把握した地域ニーズ等にもとづく地域貢献活動に取り組んでいます  
地域社会に対し育児支援事業や防災対策を通して連携しています。育児相談や園庭開放、絵本の読み聞かせ等の地域支援事業を、園の掲示板や近隣のこどもセンターにチラシを配架し、参加を促しています。「こどもセンター」で近隣の公立保育園4園合同によるふれあい遊びや体操、シアター等の講座や育児相談を行っています。園の掲示板には「災害時乳幼児支援ステーション」のステッカーを貼り、災害時に親子が利用出来る場所があることを知らせています。AEDの設置を掲示板や市のホームペー

シに掲載し、告知しています。

3)働きやすい環境づくりを通して人材を確保・育成しています

保育目標や園の基本方針の実現に向けて、人員配置、職員の働きやすい環境整備等具体的に取り組んでいます。また、コロナ禍で在宅勤務の増加による保育ニーズの多様化等にも取り組んでいます。研修は勤続年数や習熟度に応じて受講講座を指定し、知識・専門技能の向上、並びに人材の確保・育成に努めています。

4)年間活動の総括を踏まえた次年度事業計画の策定が期待されます

園では事業計画書や計画作成の基礎となる前年度の事業報告書が作成されていません。「全体的な計画」に園目標、保育の実施に関して留意すべき事項等の内容を明記し、運営の基本計画は担当項目ごとに振り返り等を通して話し合い、個別に作成し、職員会議や職員研修会等で周知し取り組んでいます。自己評価の結果等を計画書に反映し、今年度の園の重点目標等を具体的に明示し、数値目標や期末での達成基準を明確にした事業計画の策定・実行が期待されます。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

今回、第三者評価を受審し、自分達の行っている保育について振り返るとても良い機会になったと感じています。職員間で日常の保育や、行っている保育について意図していること等を話すことにより、共通認識を持つことが出来、互いの保育に対する理解にも繋がったと思います。また、継続していけると良いことを再認識することが出来たとともに、改善点についても取り組み、より良い保育を目指していきたいと思いました。

今回の経験を安心して通うことが出来る保育園の運営に繋げ、更なる職員間のチームワーク作りや保育の質の向上に努めていきたいと思っています。

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり